

# えひめ農林水産業 振興プラン 2021



令和3年3月  
愛媛県



## ～はじめに～

愛媛県では、温暖な気候や緑豊かな広大な森林、瀬戸内海と宇和海の多様性に富んだ漁場環境等の恵まれた自然条件を生かして、多品種周年供給体制が確立されたかんきつをはじめ、はだか麦やマダイ、真珠、木材製品などの良質で多彩な農林水産物が生産されており、農林水産業は本県の重要な基幹産業として地域の雇用と経済を支えています。

しかしながら、近年、農林水産業を取り巻く環境は、少子高齢化・人口減少にともなう担い手不足や国内市場の縮小、グローバル化の進展による地域間競争の激化など、一段と厳しさを増しております。

また、平成30年の西日本豪雨災害では、県内のかんきつ園地をはじめ、農地や林地が甚大な被害を受けたほか、今般の新型コロナウイルスの感染拡大によって、一部の品目で需要が落ち込み、価格が低迷するなど、新たな課題も生じているところです。

こうした一方で、高級ブランドかんきつ「紅まどonna」や良食味米「ひめの凜」、県産養殖スマのトップブランド「伊予の媛貴海」、そして「愛媛あかね和牛」、「媛すぎ・媛ひのき」といった、本県のオリジナル産品が国内外で広く好評を得ており、加えて、県が長年かけて開発したかんきつの新品種「紅プリンセス」など、近い将来大きく花開く可能性を秘めた魅力のつぼみも着実に育ってきています。

更に、産地においては、農林水産業の魅力発信や他産業との交流等を通じて、都市部からの移住就農の促進や農山漁村の活性化が図られるとともに、とりわけ、豪雨災害の被災地では、意欲ある若い生産者の皆さんが未曾有の災害を目の当たりにしても、決してくじけることなく、被災前よりパワーアップした産地づくりに懸命に取り組んでおられるなど、愛媛の農林水産業には、幾多の逆境を乗り越えていける高いポテンシャルが備わっていると思っております。

このたび、県では、コロナ禍で生じた社会の変化もふまえながら、県内でまじめにがんばる生産者の皆さんと力を合わせ、本県の農林水産業と農山漁村に新たな価値を生み出し、それを大きく育て、次の世代へと確実に引き継いでいく、そうした未来に思いをはせて、農林水産業を担う「人づくり」、農林水産業で輝く「モノづくり」、農林水産業を支える「地域づくり」の三つを柱とした「えひめ農林水産業振興プラン2021」を策定しました。

主役は、農林水産業にたずさわるすべての皆さんです。

愛顔あふれるえひめ農林水産業の持続的な発展に向け、共にチャレンジしていきましょう。

令和3年3月

愛媛県知事 中村時広



# ～もくじ～

## 【第1章】

### 総括編

- 1 えひめ農林水産業振興プラン 2021 の概要図・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 本県農林水産業の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 農業・林業・水産業の共通の取組
  - (1) 西日本豪雨災害からの創造的復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
  - (2) 新型コロナウイルスの影響と対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
  - (3) 魅力あるブランド産品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - (4) 県産農林水産物の輸出拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
  - (5) 食料自給率の維持・向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
  - (6) 「えひめ愛顔の農林水産人」の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

## 【第2章】

### 農業編

- 1 農業編の概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 取り組んでいく施策
  - (1) えひめ農業を支える担い手を確保・育成します・・・・・・・・・・・・ 14
  - (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます・・・・・・・・ 17
  - (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 3 各地域ブロックの取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

## 【第3章】

### 林業編

- 1 林業編の概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
- 2 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- 3 取り組んでいく施策
  - (1) えひめの森林・林業を支える担い手を確保・育成します・・・・・・・・ 37
  - (2) 林業・木材産業の持続的かつ健全な発展を目指します・・・・・・・・ 40
  - (3) 地域とつながるえひめの森づくりを進めます・・・・・・・・・・・・ 43

## 【第4章】

### 水産業編

- 1 水産業編の概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- 2 取り組んでいく施策
  - (1) えひめの水産業を支える担い手を確保・育成します・・・・・・・・ 48
  - (2) えひめの水産業の発展を目指します・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
  - (3) えひめの水産業を育む地域づくりに取り組みます・・・・・・・・・・・・ 57

- 用語の解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

# 第1章 総括編

## 1 えひめ農林水産業振興プラン2021の概要図

### 西日本豪雨災害からの創造的復興

- ・産地の復旧・復興を進めます
- ・今後に備え、生産基盤の強靱化、農業保険の利用拡大などに取り組みます

### 新型コロナウイルスの影響と対応

- ・影響を受けた品目の需要回復・拡大、生産者の経営の維持・安定に努めます
- ・消費の変化を捉えた販売方法を普及します

### 県産農林水産物の輸出拡大

- ・各国のニーズに対応した輸出の拡大を図ります

### 魅力あるブランド産品

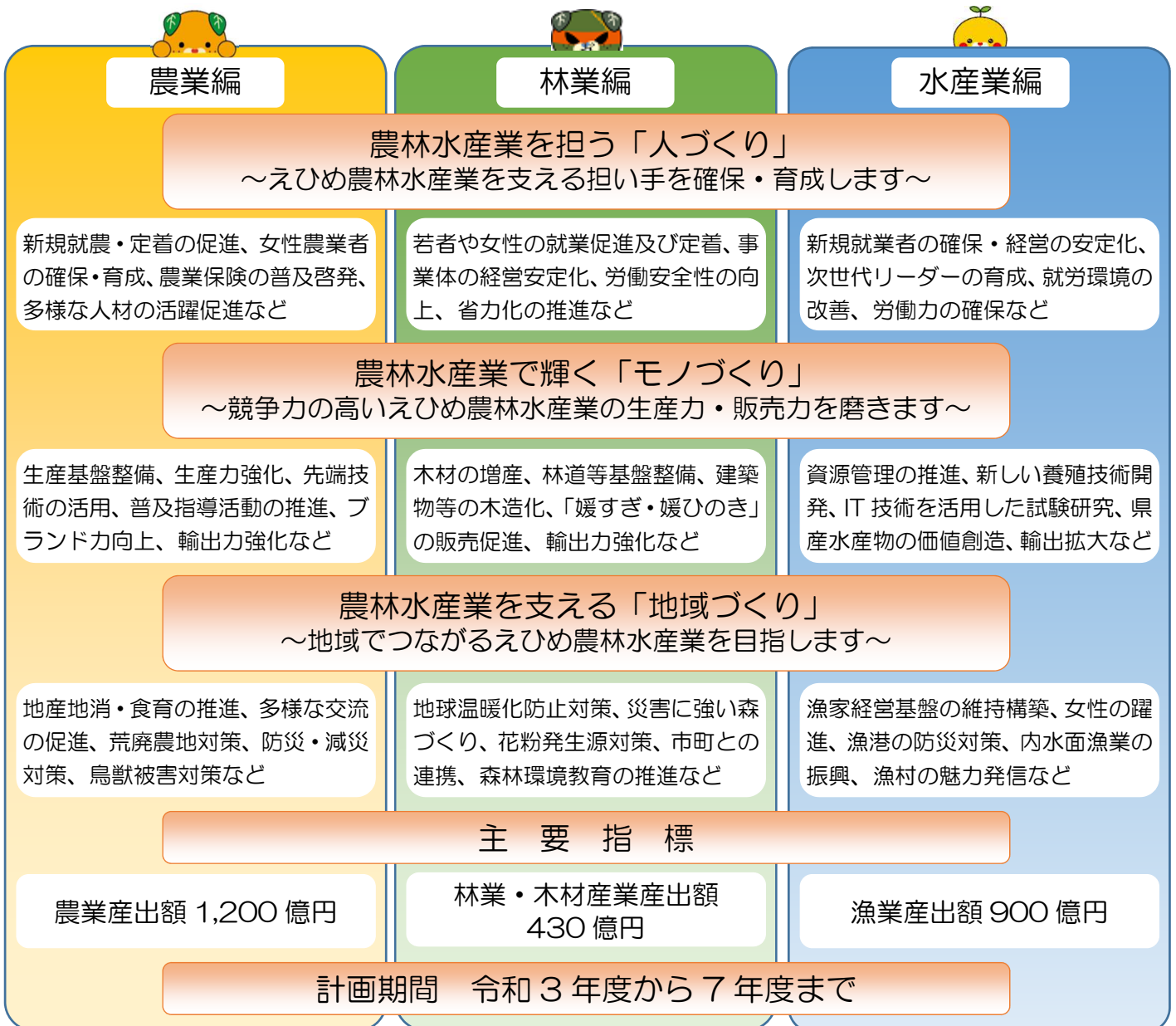
- ・「愛」あるブランド産品を先頭に、県産品のイメージ向上を図ります
- ・次代を担う魅力ある新品種を開発します

### 食料自給率の維持・向上

- ・付加価値の高い農林水産業を展開します
- ・食育・地産地消等を推進します

### 「えひめ愛顔の農林水産人」の紹介

- ・元気な生産者の情報を発信します



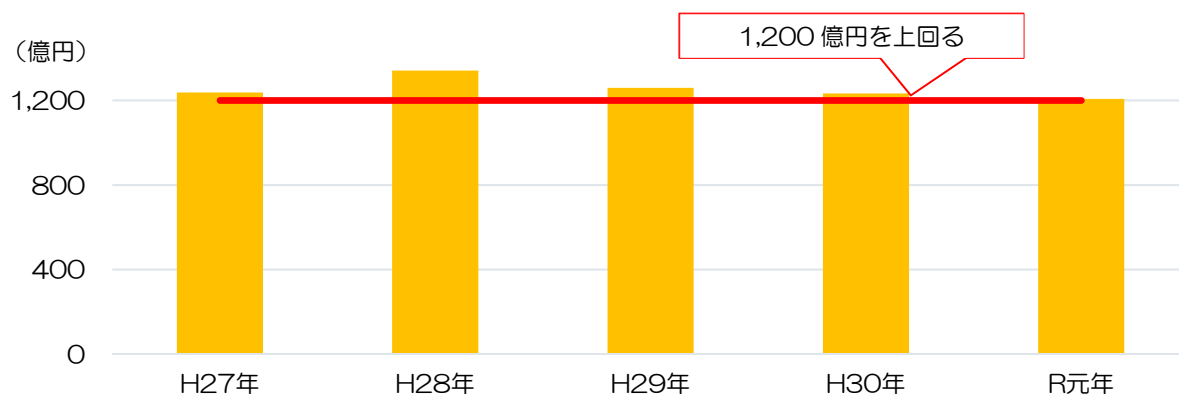
愛顔あふれるえひめ農林水産業の持続的な発展・次世代への継承

## 2 本県農林水産業の現状

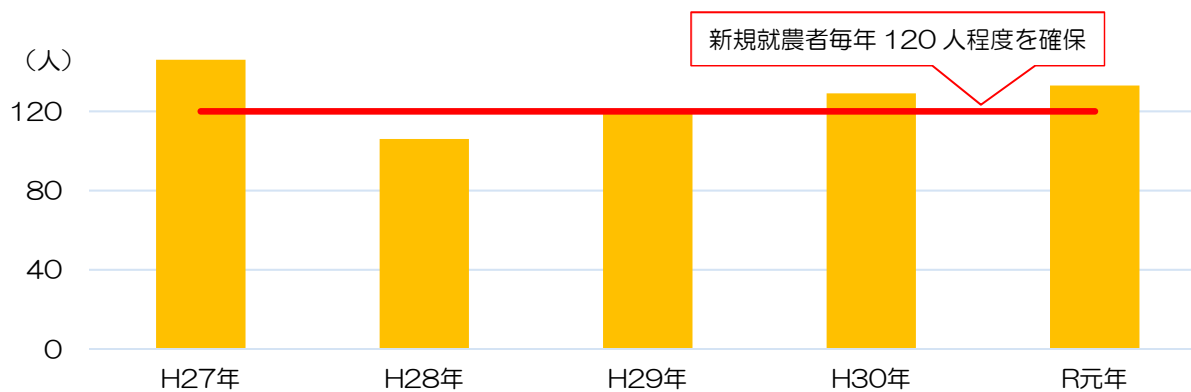
県では、平成28年3月に「えひめ農業振興基本方針2016」、「えひめ森林・林業振興プラン」、「愛顔のえひめ水産振興プラン」を策定し、令和2年度までの5年間、本県農林水産業の体質を強化し、「夢と希望が持てる愛顔あふれる愛媛農林水産業」の実現に取り組んできました。

この間、農業については、「かかわる」、「つながる」、「つたえる」を基本方向に、愛顔あふれるえひめ農業・農村の実現に向けて取り組み、指標とした『農業産出額1,200億円』を上回るとともに、柑橘王国としてゆるぎない地位を確立し、毎年120名程度の新規農業就業者（40歳未満）を確保、国内外における県産品の販路拡大など、本県の農業・農村の持続的な発展に努めてきました。

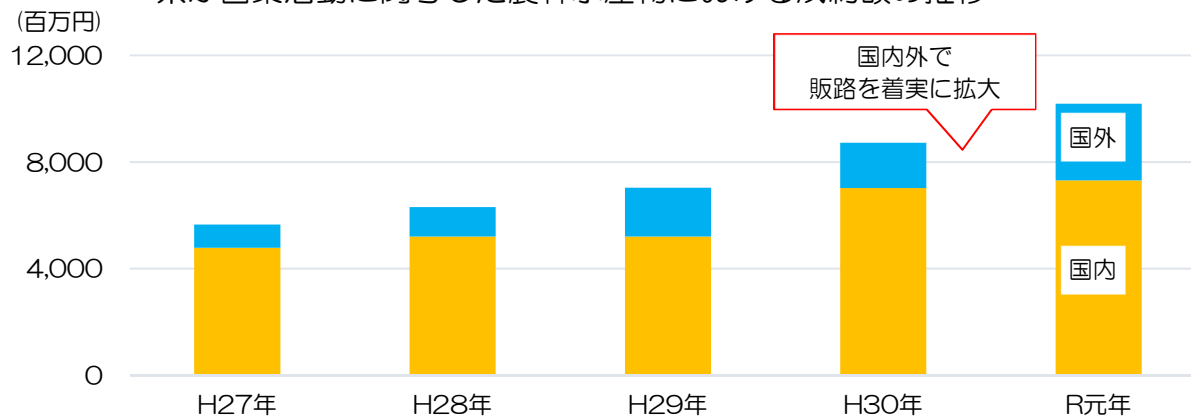
### 農業産出額の推移



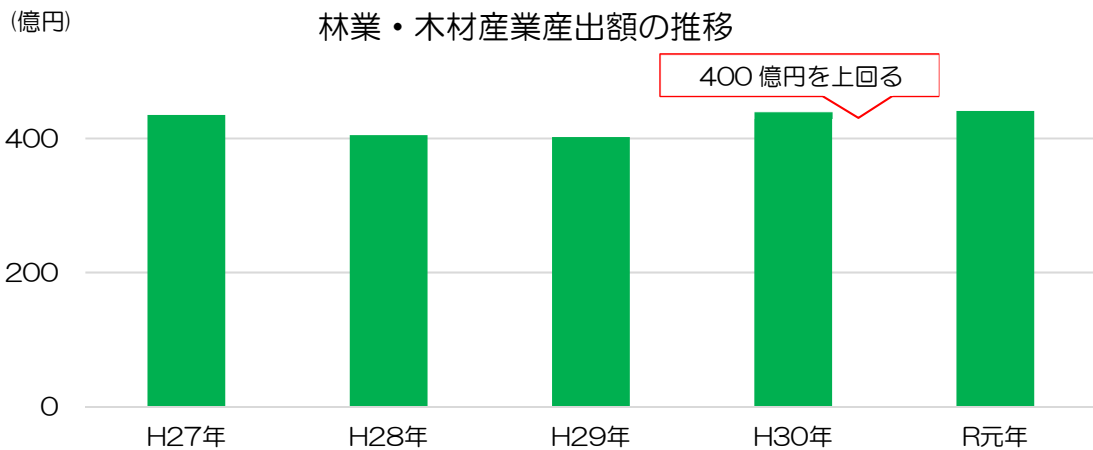
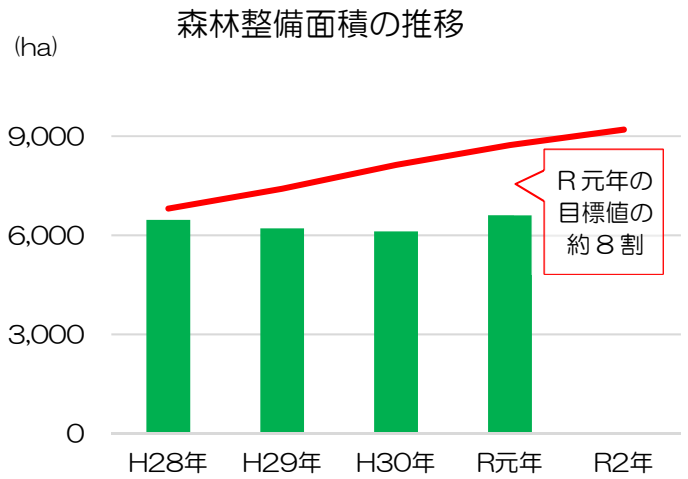
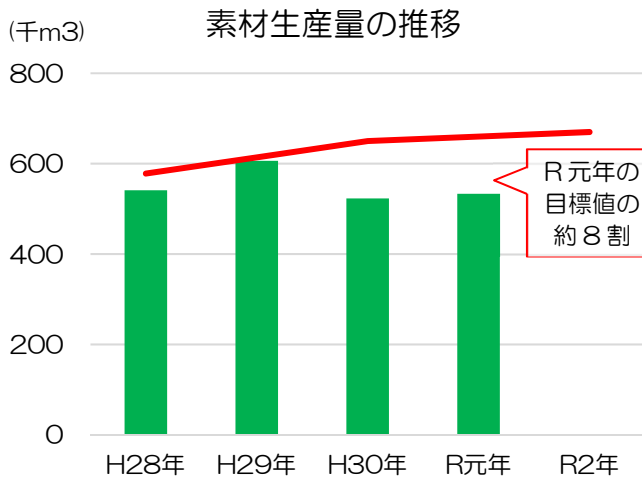
### 新規就農者（40歳未満）の推移



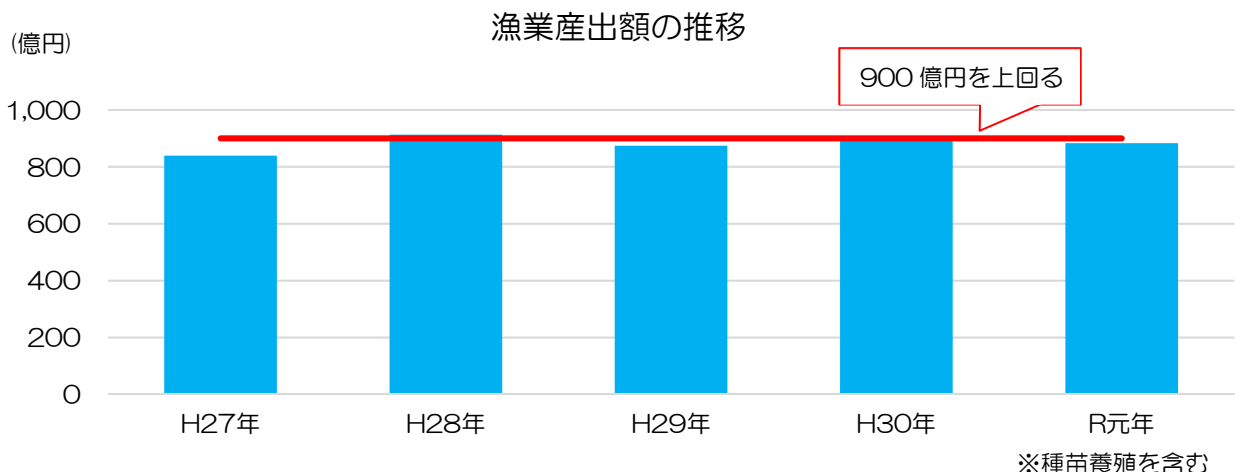
### 県が営業活動に関与した農林水産物における成約額の推移



林業については、「林業の成長産業化と健全な森林づくり<sup>もり</sup>」を基本理念に、「伐って・使って・植えて・育てて・再び伐る」という資源循環サイクルの確立を目標に、これまで「媛すぎ・媛ひのき」を中心とした国内外への販路拡大のほか、CLT 製造工場や木質バイオマス発電所の整備支援など、木材の安定供給と県産材の需要拡大に取り組んでいます。平成 30 年の西日本豪雨災害で林道等が被災した中であっても、指標である「森林整備面積」や「素材生産量」は、目標の約 8 割（令和元年）を確保するとともに、林業・木材産業産出額は 400 億円を上回っています。



水産業については、「愛顔あふれる愛媛の水産業を実現」を基本理念に、儲かる漁業の確立に向けて、養殖魚種の多様化の促進や国内外での販路開拓等に取り組みました。指標については、平成 27 年の「漁業産出額 839 億円」から順調に増加し、平成 28 年と平成 30 年は、目標値の『漁業産出額 900 億円』を上回っています。



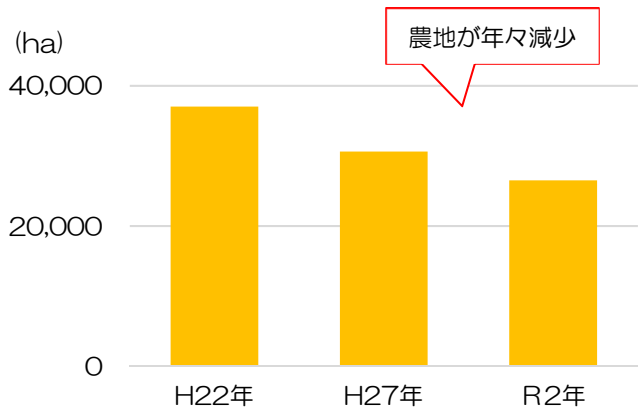
本県で活躍する生産者を紹介する『えひめ愛顔の農林水産人データベースの登録人数』は、197人（令和元年）と目標である150人を大幅に上回っています。また、『農林水産業を職業として選択する高校生の割合等』は、概ね現状維持となっています。

本県の農林水産業は、少子高齢化、人口減少が進む中で、農林水産業の担い手が不足し、農地や森林、漁場の適切な管理も難しくなるなど、生産現場は依然として厳しい状況に直面しており、このままでは、経営資源や技術の継承が困難になり、生産基盤が損なわれ、地域の維持が困難になることも懸念されます。さらに、全国各地で頻発している大規模な自然災害、TPP11 や日欧 EPA、日米貿易協定など国際化の進展による輸入農林水産物の増加、新型コロナウイルスの影響による経済環境の悪化などへの不安も増しています。

基幹的農業従事者数の推移



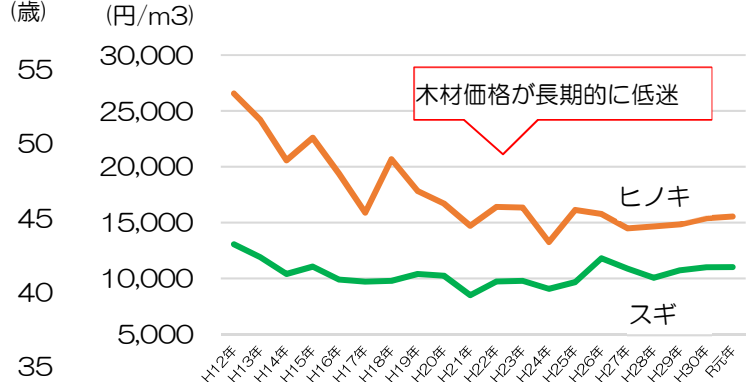
経営耕地面積の推移



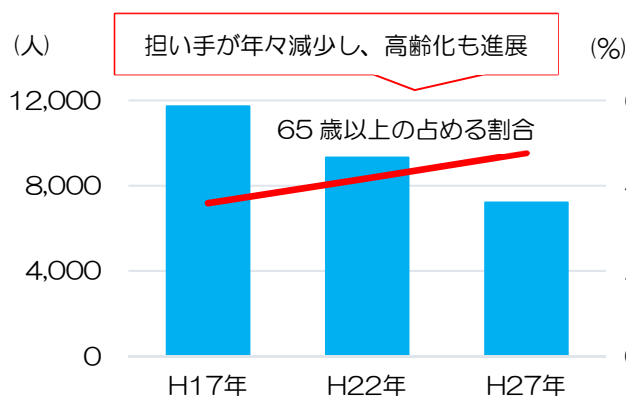
林業労働力の推移



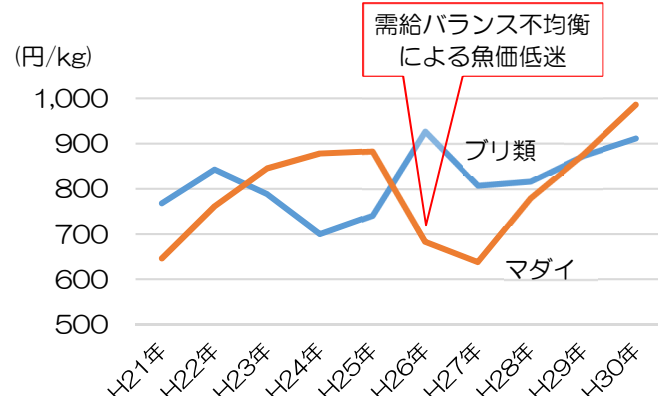
木材価格の推移



漁業就業人口の推移



主要養殖魚価格の推移





農林水産業を取り巻く諸課題に対応し、一体的に振興していくためには、農業・林業・水産業に係る施策を一体的に推進することが効果的です。このため、県では、これまで個別に策定していた農業・林業・水産業の振興プランを統合し、「えひめ農林水産業振興プラン 2021」を策定することとしました。

本プランにより、令和3年度から7年度までを計画期間として、農林水産業を担う「人づくり」、農林水産業で輝く「モノづくり」、農林水産業を支える「地域づくり」の三つを柱に、多様な担い手の確保・育成、中小・家族経営などをはじめ多様な経営体の経営安定・発展、他産地との競争に打ち勝つ強靱な産地生産体制の構築、魅力あふれる県産農林水産物のブランド化・販路拡大など「儲かる農林水産業」を展開します。同時に、農山漁村の定住環境整備や鳥獣被害対策など、農山漁村の活性化にも取り組みます。また、地産地消や食育、グリーン・ツーリズム、職業体験などを通じ、持続的な開発目標（SDGs）への貢献も含め、農林水産業の有する多面的な価値を、次代を担う子どもたちをはじめ、広く県民の皆様にお伝えしてまいります。

本プランでは、「農業産出額 1,200 億円」の維持、「林業・木材産業産出額 430 億円」、「漁業産出額 900 億円」の達成を主要指標とし、県や市町、関係団体等が一体となって、オール愛媛で、愛顔あふれるえひめ農林水産業の持続的な発展と次世代への継承を目指します。

なお、本プランは、「第六次愛媛県長期計画（愛媛の未来づくりプラン）」を上位計画として、前期基本方針・プランを発展的に継承し、これから取り組んでいく施策の方向性を示すとともに、愛媛県木材の供給及び利用の促進に関する条例第 12 条に基づく「木材の供給及び利用の促進に関する基本的な計画」として策定するものです。



### 3 農業・林業・水産業の共通の取組

#### (1) 西日本豪雨災害からの創造的復興

- 平成 30 年 7 月に発生した西日本豪雨災害により、本県農林水産業は総額約 655 億円に及ぶ大きな被害を受けました。発災から 2 年半が経過し、現在では多くの農地での営農や漁業が再開されているほか、被害林地の治山工事が実施されるなど、復旧・復興が着実に進んでいます。

被災直後



復旧中

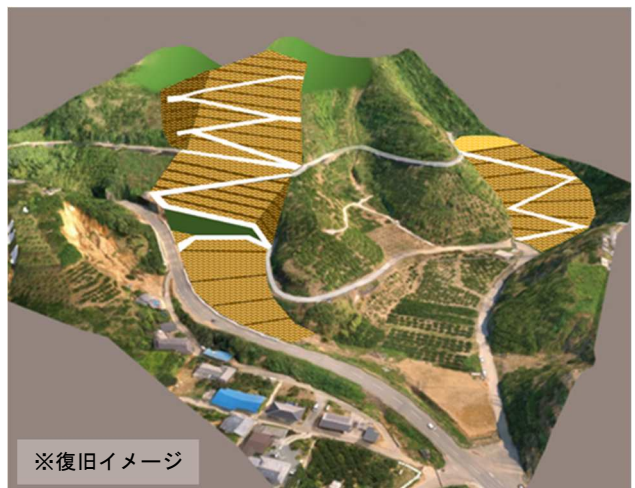


- また、園地の崩落被害が生じたかんきつ園地などでは、広い急傾斜園地の緩傾斜化や作業道の整備を行い、より生産性が高く災害に強い園地に再生する再編復旧にも取り組んでいます。園地の復旧から成園化までには長い時間を要するため、産地の復興に向けて引き続き取り組んでいくこととしています。

被災直後



再編復旧後



- さらに、この経験を教訓として、被災を免れた農地においても再編整備など生産基盤の強化に取り組むとともに、リスクに備え、被災による損失等を補償する農業保険の普及啓発、集出荷場等も含めた事業継続計画の普及などにも取り組んでいくこととしています。

## (2) 新型コロナウイルスの影響と対応

- 令和2年の冬から世界中に広がった新型コロナウイルスにより、本県でも多くのイベントが中止になったほか、外出自粛に伴い外食機会が大幅に減少するなど、生活や経済活動に大きな影響が生じました。本県の農林水産物についても、販売機会を失ったために、大幅な需要の減少や価格の下落が生じている品目もあります。
- 県では、影響が生じている品目を中心に、生産者が経営を継続できるよう、需要の回復と拡大に取り組むとともに、地産地消への意識の高まりやECサイトでの購入の増加など、新しい生活様式に伴う消費動向の変化を捉えた販売方法の定着を図ることをとしています。



学校給食への県産牛肉（焼肉）の提供



学校給食への県産水産物（スマ和風グリル）の提供



My スタンドブークによる職場コースの創出



首都圏などへの県産材販売



接触確認アプリの活用や飛沫防止策を講じてのイベント開催



感染防止を目的とした接客時におけるビニール手袋の着用

### (3) 魅力あるブランド産品

- 本県では、「愛媛産には、愛がある。」を統一キャッチフレーズに、安全・安心で品質の優れた農林水産物や加工食品を「愛」あるブランド産品として認定しています。現在、46品目 85 産品を認定しており、これら先頭に、食材の宝庫としての地域ブランドの確立と県産品全体のイメージの向上を目指しています。



伊予の媛貴海



愛媛 Queen(クィーン)スプラッシュ



愛媛あかね和牛

- また、愛媛ブランド材を「媛すぎ・媛ひのき」と命名し、ヒノキの生産量が全国でもトップクラスであることや、本県の製材品のセールスポイントをPRし、知名度向上と販路拡大を図っています。



「媛ひのき」



「媛すぎ・媛ひのき」サンプル展示

- さらに、次代を担う魅力ある新品種の開発にも取り組んでいます。



米の新品種「ひめの凩」



かんきつ新品種「紅プリンセス」

## (4) 県産農林水産物の輸出拡大

- 経済発展による所得の向上や和食への人気の高まりなどを背景に、安全・安心で高品質な日本の農林水産物は、海外で高い評価を受けています。また、平成30年以降、TPP11、日欧EPA、日米貿易協定等の国際貿易協定が相次いで発効するなど、輸出のチャンスは大きく広がっています。
- 県では、国ごとの需要の動向を捉えるとともに、農薬や放射性物質に係る規制など輸出障壁の解消についても積極的に働きかけ、ターゲットを絞って輸出の拡大に戦略的に取り組んでいます。



知事によるトップセールス  
(カンボジア)



海外フェア・イベントへの出店  
(香港)



温室みかんの輸出  
(台湾)



県産材住宅の建築  
(韓国)



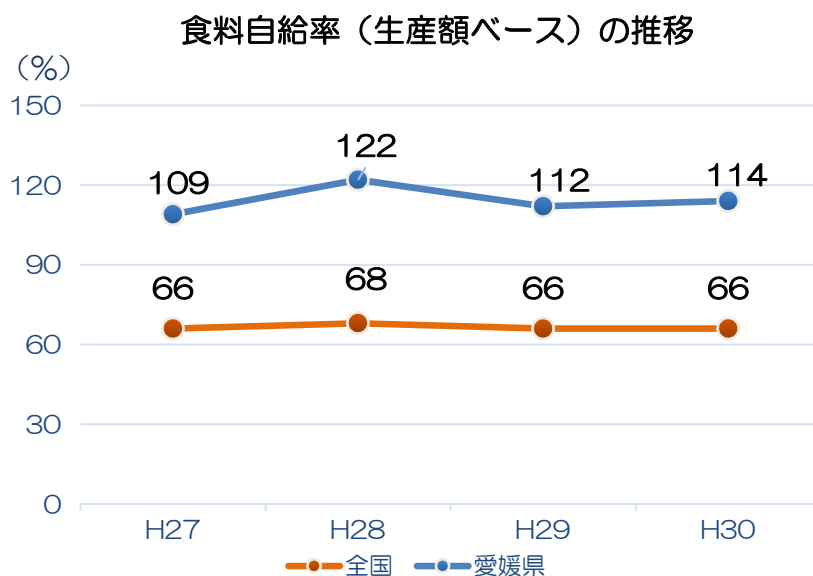
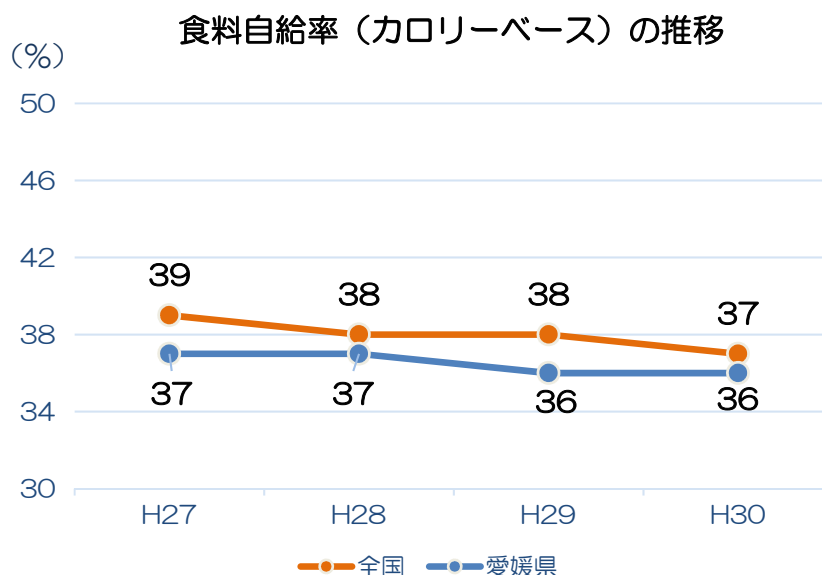
トロント和食まつりでの県産養殖マグロ解体  
(カナダ)



盆栽の輸出  
(EU)

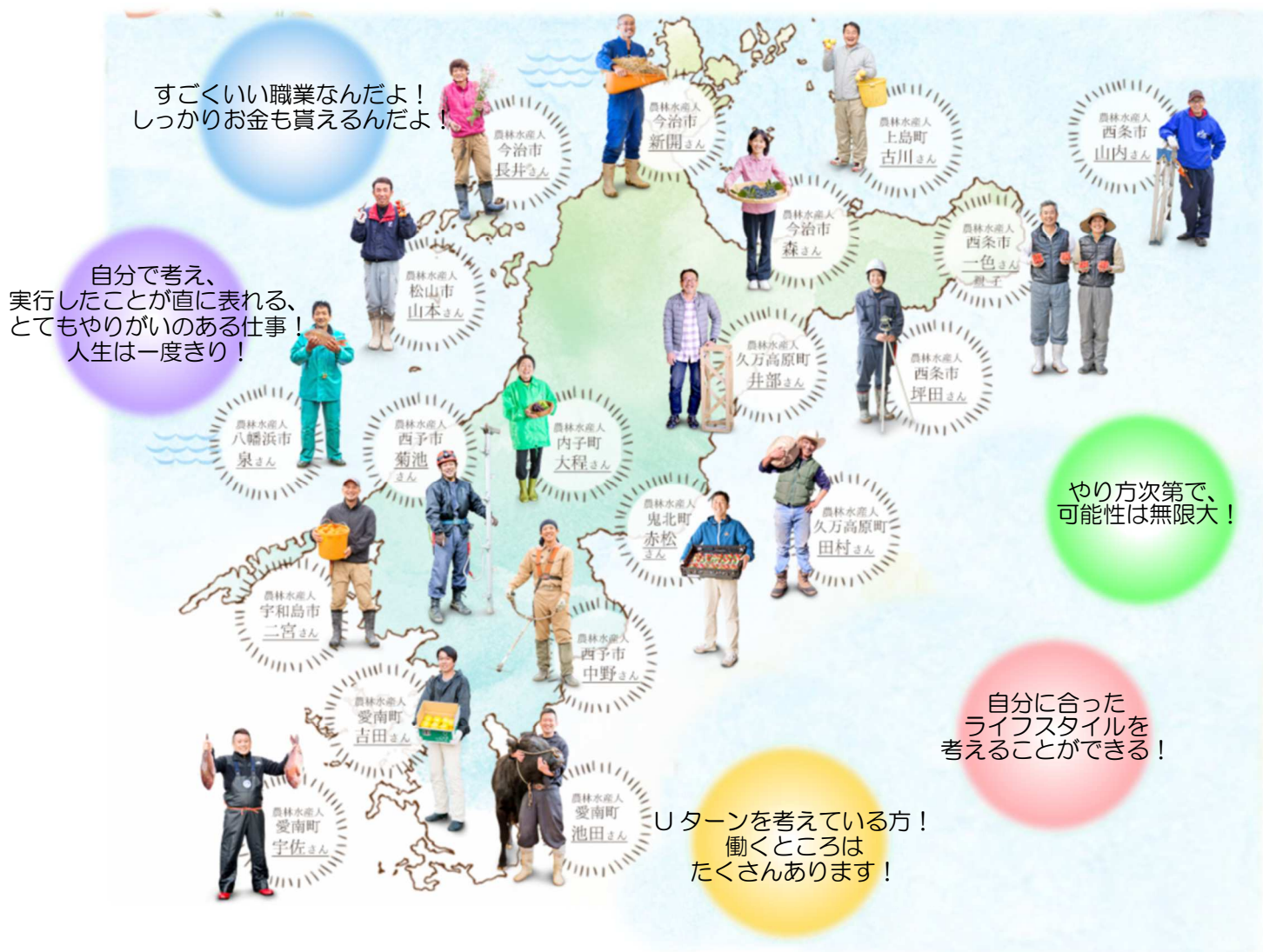
## (5) 食料自給率の維持・向上

- 本県の平成30年の食料自給率は、カロリーベースで36%となっています。これは、コメなどカロリーの高い品目の生産に適した平坦農地が少ないという地理的条件から、カロリーの低い柑橘や輸入飼料に頼る畜産など、食料自給率への寄与度が低い品目の生産が多いことによるものです。
- 一方で、柑橘や畜産などは付加価値が高いことから、生産額ベースでは114%と、平均を大きく上回る高い数値になっています。
- 今後も、本県農業の特徴を活かした付加価値の高い農業を展開するとともに、食育や地産地消、国内販路の開拓などにも取り組むことにより、県産農林水産物の生産や消費の拡大を図り、食料自給率の維持・向上につなげていきます。



## (6) 「えひめ愛顔の農林水産人」の紹介

- 県では、「えひめ愛顔の農林水産人」データベースを作成し、農林水産業の元気な姿や、地域で頑張っている生産者の情報を、「愛媛で就業！農林水産まるかじり就業支援サイト」で発信しています。
- 現在、登録数は218人に上っており、儲かる農林水産業を実践している方や、異業種から参入した方、UJIターンした方など、意欲や夢を持って元気に頑張っている生産者を、幅広く紹介していますので、次代を担う子どもたちをはじめ、県民の皆さんに是非とも御覧いただきたいと考えています。



- 「愛媛で就業！農林水産まるかじり就業支援サイト」では、他にも、「就業支援制度」や「経営シミュレーション」など、愛媛県で就業する際に気になる情報も掲載しています。

■ <https://ehime-marukajiri.jp/>

